

三つのコツで失敗しない！



好きな夏野菜をタネから楽しめる

果菜類の上手な育苗管理

春が近づき、待ちに待った夏野菜のタネまきシーズン到来ですね！

トマトやナス、ピーマン、キュウリといった定番の夏野菜の場合、苗を購入するのは簡単ですが、タネから苗を育てる方法（育苗）にもメリットと楽しみがあります。

今回は大事な三つのコツをご紹介しますのでぜひ果菜類をタネから育ててみてください。

編集室

好みの品種を選んでたくさん作れる！
タネから苗作りをしてみよう！

タネから苗を作れば、園芸店にはない品種やお気に入り
の品種・新しい品種などを栽培できます。また、安価でた
くさんの苗を作ることができ、多くできたらご近所の
人に苗を分けて一緒に育てる楽しみも広がります。少々手
間は掛かりますが、タネから育てた野菜を収穫する喜びは
格別です！

果菜類の育苗は難しい
と思われがちですが、ポ
イントをおさえれば大丈
夫。苗作りを成功させる
三つのコツをご紹介します
ので、今年ぜひ作り
たかった品種の栽培にチ
ヤレンジしてください。

夏野菜 育苗のコツ

- ①まき時期を守る
- ②必要な資材を使う
- ③育苗手順にならう

コツ①

まき時期を守る！

果菜類のタネまきをいつ行うかは、まず定植を行う時期から逆算して考える必要があります。一般に果菜類は高温を好むため、一般平坦地での家庭菜園では5月上旬ごろから多くの果菜類の植え付けを始めます（下図2）。そこから考えると、2月下旬～3月ごろのまだまだ寒い時期にタネまきをするため、その間の栽培では保温・加温用資材の育苗器が必要となります。

図1 果菜類のタネの発芽温度・発芽適温

	発芽温度				発芽適温	光線
	10	20	30	40℃		
ナス						
ピーマン						
トマト						
スイカ						×
メロン						×
キュウリ						×
カボチャ						×

嫌光性種子 ×

図2 露地早熟栽培のタネまき～植え付け期の目安

	2月	3月	4月	5月
ナス	●○	○	△△	△△
ピーマン	●○	○	△△	△△
トマト	●○	○	△△	△△
スイカ		●○	○	△△
メロン		●○	○	△△
キュウリ		●○	○	△△
カボチャ		●○	○	△△

●○ タネまき
○ 育苗
△△ 植え付け
△ トンネル



コツ2

必要な資材を使う！



果菜類の育苗には、タネ、培土、タネをまく容器、鉢上げするポリポット、ジョウロ、気温と地温を測定する温度計、トンネル資材や保温用資材などを用意します。タネをまく容器は、作る苗の数が多い場合は播種箱に、数十株程度であればセルトレイに、数株でしたらポットに直接タネをまくのがよいでしょう。2月下旬から3月はまだ寒く、この時期に育苗を行う場合はハウスやトンネルなどの防寒対策が欠かせず、3月中旬以前のタネまきでは温床装置（保温マット、サーモなど）もあると便利です。家庭菜園用の簡易な保温用資材が市販されていますので、利用するとよいでしょう。

育苗に便利

温度計機能付きで便利な保温マット

「農電園芸マット・デジタルサーモセット」

詳しくは p.57へ



低温期に活躍する電気加温機

「発芽・育苗どーむセット」 詳しくは p.58へ

電気ヒーター内蔵式で内部で暖気を保つ！

「家庭用発芽・育苗器 菜友器ドームセット」

詳しくは p.58へ



タネまきに便利

「タキイ たねまき培土」

詳しくは p.58へ



タネから育てるならコレ！
低温期育苗にもよい

培養土や育苗ポットなど必要な物がすべてセットになっていて便利！

あいさいか
「愛菜花 スターターセット」

詳しくは p.58へ



Q 適期表の通り1月にタネをまきましたが発芽しません。どうしてでしょうか？

A おそらく1月の温度の低さが原因です。

育苗のお悩み

タネが発芽するために必要な条件が揃っていないため、芽が出ていないと思われれます。発芽には、①温度、②酸素、③水分、④光の4条件が必要となりますが、ご質問のタネまきが1月ということなので、温度が低すぎたことが第一の原因に考えられます。野菜ごとに最適な発芽温度（14ページ図1）があり、愛菜花などの育苗器を使って加温してタネをまいてあげる必要があります。また、加温による土の乾燥からくる水不足も考えられますので、水もちのよい培土を使用し、発芽するまでは毎日しっかりと水やりをしましょう。



コツ3

育苗手順にならう!



タネをていねいにまき、加温機や発芽・育苗資材を使って野菜にあった発芽適温と生育適温を保つのが、上手に苗を育てるコツです。またタネまき前の培土の準備は、すべての果菜類に共通のプロセスなので必ず行いましょう。



3

水が抜けて土が落ち着いたら、タネをまき穴を指で押さえてあけていく。



2

セルトレイ（プラグトレイ）に土をつめる。その後、再び水をかけ、土を湿らせる。



1

タキイの「たねまき培土」を大きめの器に出し、水を加えて土を湿らせる。「たねまき培土」は持ち運びしやすいように、また肥料を長持ちさせるため、水分が入っていないので必ず吸水させる。その後、土の湿りが均一になるよう、全体をかき混ぜる。

タネまき前の準備



7

タネまき後約90日、1番花が開花直前のころが定植適期。



5

根鉢を傷めないようセルトレイから苗を引き抜き、土をつめたポットに根鉢をはめ込み、株を土になじませるよう軽く押さえる。ポットの底から流れ出るまで水をやる。



3

水やりを行い、その後はトレイを愛菜花などの保温育苗資材の中に入れて加温させて保温する。ナスは発芽適温は25~30℃だが、昼間30℃、夜間20℃の変温操作で発芽がよく揃う。本葉2~4枚目までは最低夜温14~16℃で管理。水やりは午前中に行い、夕方にはポットの表面が乾くようにして徒長させないようにする。



1

まき穴にナスのタネをまいていく。



4

本葉3枚程度になったら12~15cmポットに移植する。土は「タキイ育苗培土」が最適。



2

まき終わったら薄めに覆土する。



6

温室
「グリーンキーパー」と
加温機
「パネルヒーター」
詳しくは p.58、59へ

水やり後は温室に入れて管理する。本葉5~6枚目までは最低夜温12~14℃で管理し、それ以降は最低夜温10~12℃で管理する。定植（植え付け）前には乾燥ぎみに管理していく。

Q タネをまいて発芽もしたのに急に枯れてきてしまいました。
A さまざまな原因が考えられます。

温度不足や水の過不足、培土の不良などさまざま原因が考えられます。まず温度不足にならないよう、寒い時期の育苗は加温保温用の育苗資材を利用してください。次に、発芽したばかりの苗はまだ根量が少なく、土壌中の水分の過不足の影響を受けやすいので、毎日苗の様子をチェックし、土の表面が乾いているようなら水を与えるようにしてください。

また、苗を育てる培土は、たねまき培土や育苗培土などの清潔で水はけ・水もち・通気性のよいものを使いましょう。水はけや通気性の悪いものは根腐れを起こしやすく、清潔でないものは病原菌が原因で立枯れを起こす危険があります。



Q 冬にタネをまくので育苗資材を使ったのですが、苗が貧弱で徒長してしまいました。徒長させないポイントは？
A 温度、湿度、光に注意しましょう。

発芽後に高温・過湿・光不足になると、苗がひよひよると徒長しやすくなります。使用している育苗資材が温度設定できるのであれば、昼と夜で温度を変えましょう。昼は発芽適温に近い温度設定にし、夜温は15℃程度に設定します。夜間の生育を抑制することで、徒長しにくくすることができます。温度調節機能がない場合は場所の移動や保温用のカバーをかけるなどのこまめな調整をしてください。

水のやりすぎもよくありませんので、発芽したら水やりを控え、やや乾燥ぎみに管理します。

